

# 災害救助法のさかのぼり適用、関係機関に働きかけを 日本共産党上越地区豪雪対策本部と党議員団が市に要請

「災害救助法の適用の数日前、どうしてもがまんできずに機械を入れて除雪してもらった。なんとか助成の対象にならないか」「集落への除雪支援はいいことだが、急すぎる。期間中はいつでも対応できるようにしてもらいたい」：市民のみなさんから寄せいただいた声を基に8日、日本共産党上越地区豪雪対策本部のいとう誠本部長と党議員団は上越市長に対して豪雪対策に関する要請書を提出しました。

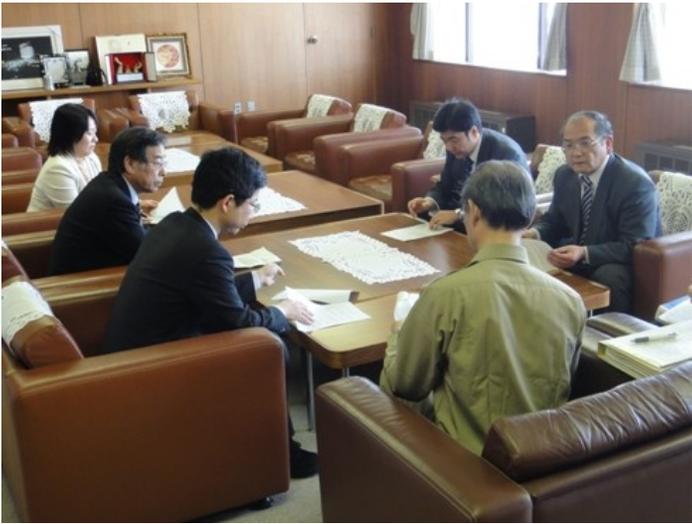
要請書に盛り込んだ事項は、「要援護世帯への除雪支援は柔軟に対応を」「通学路における道幅の確保、歩道除雪にいつそう力を入れていただきたい。また、交差点、T字路における高い雪の壁が見通しを悪くしているのを、早急に除去するよう徹底していただきたい」「災害救助法の適用については、少なくとも数日間は一

及出来る仕組みとするよう関係機関に働きかけていただきたい」など11項目にのぼります。要請書は馬場和明危機管理監に手渡し、いとう本部長と四人の議員全員が具体的な事例をあげて要請内容を説明しました。馬場危機管理監は、「要望は関係部署につないでまいりたい」とのべました。今後市民のみなさんから寄せていただいたものはしっかりと伝えていきたいと思えます。

## 地域に根差した病院への取組続く

県立柿崎病院後援会理事会が8日開催されました。藤森病院長から「信頼される病院づくりに向けての取り組み」について講演していただき、その後、意見交換を行いました。

藤森病院長は、柿崎病院には、病院としての機能と地域住民の健康維持



雪庇落とし作業  
(大島区板山)

機能と地域住民の健康維持の機能の2つがあるとして、これまでの取組について説明しました。同病院は、内科、外科、整形外科、耳鼻科、眼科、皮膚科、婦人科など、身近な疾患に対応するとともに、呼吸器疾患に特化した専門医療を提供してきました。また、特定健診に積極的にかかり、施設個別健診も行っています。肺炎球菌ワクチンの接種本数は新潟県で第一位といえます。地域医療は、行政、産



**冬は漬物がおいしい**  
寒い冬ももう少しとなりました。この時期、雪掘りなどで汗をかいた後のお茶飲み会で喜ばれるのは漬物です。  
写真はハヤトウリ、ミョウガ入り青ウリの漬物。旨くて最高の味でしたよ。(川谷地区にて)



キヤナーを理事会のメンバーが見せてもらっているところ。この装置は一回転で最大16スライスを一度に撮影できる画期的なCTです。病気の早期発見、正確な病状把握に威力を発揮することでした。

## 3月定例議会は1日からの予定

新年度予算や関係条例などを審議する3月定例議会が3月1日から開催される予定です。地域事業費制度の見直し問題や災害対策などが焦点となるものと思われまます。正式な日程が決まり次第、お知らせします。

業、教育とともに地域に欠かすことのできないもの。地域に根差した取組を一層強化していきたい、と病院長はのべておられました。

写真は、昨年10月に導入されたばかりの16列型マルチスライスCTス

# 春よ来い 第一四一回 冬の夕陽

二月三日の夕方のことでした。牛舎脇で除雪をしていた時、西の空が目に入りまし  
た。吉川のそばにあるクルミの木も、かつて牧草地だったところの雪原もあかね色に  
染まっています。夕陽が沈もうとしていたのです。

「わー、きれいだ」と思った直後、私は、カメラを取りに走りだしてしまいました。じつ  
と見ているのもいいですが、こんなに素敵なた陽を自分だけで見ているのはもったい  
ない、大勢の人に見てもらいたいと思ったのです。

夕陽はいつもスツ、スツと瞬く間に沈んでしまいます。この日は幸い、デジタルカ  
メラが近くに置いてあった車の中に取りました。そのおかげで、雪原に沈む一歩手前  
の夕陽を撮影することが出来ました。

今年の冬はカマキリ博士が予想したように大雪となりました。いきなりドカーンと  
降るのではなく、毎日のように降り続け、じわりじわりと雪の嵩が増していきまし  
た。そして下旬からは積雪量が一気に増し、吉川区や大島区の山間部では四メートル  
を超えるところも出てきました。まさに豪雪です。

先月の二五日、雪が降りしきるなか、豪雪地帯を視察してきましたが、何人もの人  
たちから「この冬はいつもと違う」という声を聞きました。例えば大島区、これまで  
区内でいつも最高積雪を記録していた菖蒲地区よりも旭地区の集落の方が多いとい  
うのです。それと雪が重い。見たところまだ雪下ろしをしないでも大丈夫そうな倉庫や  
作業所などの建物の倒壊が相次いでいます。

視察をしていた時、大島区の田麦地内で除雪車と合いました。すれ違う時にオペ  
レーターと補助者の顔を見たら、なんと二人とも従兄でした。二人も私に気づいて、  
声をかけてくれました。「おい、何とかしてくれや。ここは日本一積もっているぞ。  
三メートル八〇センチもある。雪を止めてくれ」。連日、朝は暗いうちから作業にあ  
たっていて、オペレーターなど除雪作業をしている人たちの疲れはピークに達してい  
ました。

いうまでもなく、どこの家でも雪との格闘が続きました。積雪が四メートルを超え  
ても除雪機で毎日除雪をし、木戸先の道路がまるで春先の黒四ダムに至る道のように  
あいている家もありました。屋根の上の雪も徐々に重くなっていきます。土日に屋根  
に上って雪下ろしをする姿もあちこちで見かけました。

私の場合、市役所に行く前、帰ってからと除雪機をフル回転で動かす日が何回もあ  
りました。先月の下旬、会議を終えて家に戻ったら、牛舎の屋根雪が地面の雪とつな  
がっています。時間はすでに夜一〇時を過ぎていましたが、このままでは屋根を壊す  
かも知れないと心配になり、除雪機を動かしました。

雪との闘いは一か月以上続きました。雪が降っている日はもちろんのこと、雪が降  
らなくてもどんよりした日が多く、お天道さんはなかなか顔を出しませんでした。そ  
の影響が大きかったのでしょうか、二月の初め、それこそ数日ぶりに夕陽を見た人  
たちの心が震えたのは。

あかね色に染まった冬の夕陽に感動したのは私だけではありません。大勢の人がそ  
の日の夕陽に心を動かされ、語りました。郵便局に勤めていたYさんもその一人で  
す。「きれいだっただねえ、あんがに暖かい(あったかい)夕陽見たの初めてだわ」冬  
の夕陽を語るYさんの笑顔がまた素敵でした。

## 住宅リフォーム助成、県内13自治体で実施

住宅リフォーム助成事業は県内の30自治体のうち、13自治体で実施されていることがこのほど分かりました。

すでに実施している自治体は、胎内市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、燕市、糸魚川市、上越市、見附市、妙高市、柏崎市、五泉市、佐渡市の13自治体です。

このほか、2011年度は阿賀野市、魚沼市も取り組むことを予定しています。

県内自治体の半数も取り組むわけですから、これはぜひ新潟県でも取り組んでほしいものです。すでにお隣の山形県や秋田県は県レベルでも実施しています。

先月28日の参議院代表質問では日本共産党の市田書記局長が住宅リフォーム助成制度をとりあげ、自治体が実施している制度への支援を求めました。

答弁で菅首相は、「住宅市場を活性化させる観点から住宅リフォームの推進はきわめて重要だ」「住宅リフォーム助成制度については社会資本整備総合交付金を活用でき、今後とも支援していく」と答えています。

### 子ども医療費助成、「子どもの数で差をつけるのはおかしい」との声広がる

新潟県内自治体では子育て支援が遅れています。昨年10月の調査で、「子どもが3人以上いる場合」という制限を設けているのは、新発田市、阿賀野市、上越市、柏崎市など12自治体です。

このうち新発田市は子どもの数による制限をはずし、対象を広げる決断をしました。今回の議会で予算と条例改正をして、9月から実施の予定といます。制限を設けている自治体では、「お金がないから」などをその理由としています。子育て世代のみなさんからは不満の声が続出しています。上越市でも決断するよう党議員団で求めてまいります。ご支援よろしくお願ひします。

### 志位委員長から上越市長にお見舞い状



豪雪により、市民生活に大きな影響を受けている貴自治体と住民のみなさんに、心からお見舞い申し上げます。除雪費の大幅増額などを国に求めるとともに、みなさんとともに雪害対策に力を尽くし、防災対策の確立のために全力をあげます。

2011年1月31日

日本共産党中央委員会

委員長 志位和夫